



## ～介護支援サービスを市町村へ移管～ 介護は地域で担うべき!

先日、読売新聞(5月5日)1面において、「介護保険『軽度』切り離し」という記事が出ていました。私も介護事業に携わる身ですので、何か新しいこと、制度の変更が出てくるのは心配ではあります。しかし、介護保険制度の大幅な見直しはやむを得ないだろうな、と思っているのも事実です。

介護のサービスは人件費の固まりのようなもので、安全やサービス水準の確保という観点から職員の配置基準も定められています。

現状の枠組みでは創意工夫の余地は少ないと言えます。新聞記事の中に「ボランティアなどを活用し」という文言がありました。身体に関わるサービスは介護の資格を持った職員が行うべきでしょうが、見守りやレクリエーションなどは、必ずしも介護職員が行う必要がないと思っています。

介護のニーズは地域により、世帯により様々ですので、国で一律の基準や運営方針を定めることには限界があります。人件費をそれほどかけず、効果的な事業を生み出すには、細かい単位で創意工夫を積み重ねなければなりません。ある程度広域(都道府県単位程度)での財政的な基盤を確保しつつ、市町村が介護サービスの核となることに私は賛成です。



新しくも  
懐かしい

## きざ 日本のはし

### 地域の人材を生かす! (地域の草刈りボランティア活動…)

様々な企業などでご活躍された方々が、大勢地域に戻って来られます。「定年を過ぎたら第2の人生、趣味の世界に…」というだけでは、誠にもったいない限りです。私が住んでいる久保島地区では、土地・水・保全管理交付金を受けて、畦道などの管理をしていますが、先日も1,000円ほどの実費補償で、大勢の方が刈り払い機や軽トラックなどを持ち込み、作業をしてくださりました。高齢社会ということとは、元気な方が多く地域にいらっしゃるといことで、大きなチャンスを秘めているということになります。ぜひ、皆さんの力を、地域で生かせるような仕組みを作りましょう!



## 地域でがんばる人をご紹介!! 地元のがんばりリスト

Gambarist



### 福祉と農業の組み合わせで、相乗効果を生み出す 新井利昌さん(熊谷市)

今回は、熊谷市弥藤吾にある埼玉福興株式会社代表取締役、新井利昌さんを訪ねました。平成19年に農業生産法人格を取得し、障がい者の方と共に農業に取り組まれています。



縫製業を営んでいたご両親が、工場で働く障がい者との関わりを持つようになったことから、福祉の世界に入られたとのこと。縫製業に代わる働く場として、農業に取り組むようになったそうです。現在はハウスでレタスやサラダホウレンソウなどの水耕栽培と、畑ではタマネギの栽培に取り組まれています。



障がいの内容や程度により、働いている方の作業は変わりますが、同じことを繰り返す作業だと、比較的こなせる方が多いとのことでした。収穫した作物は、農協、生協等に出荷しています。

就労支援の事業所という形で障がい者の働く場を確保し、しかも、人手不足の農業を支えられるということで、今後の発展が期待されます。

## 活動報告



## INFORMATION

### ■明るい日本を創る座談会

【行田市行田地区】5月26日(日) 午後7:00～  
ビューティーサロン アライにて  
(埼玉りそな銀行行田支店向かい)

### ■街頭演説

5月18日(土)  
午後1:00～熊谷駅北口  
1:30～八木橋東口前  
2:10～埼玉りそな銀行行田支店前  
2:45～梅林堂羽生店前  
3:15～「加須市役所入口」交差点

### ■後援会総会・懇親会

6月22日(土)午後2:00～  
さくらめいと「月のホール」にて 会費3,000円  
どなたでもご参加ください!!お申し込みは事務所まで  
ご一報ください。